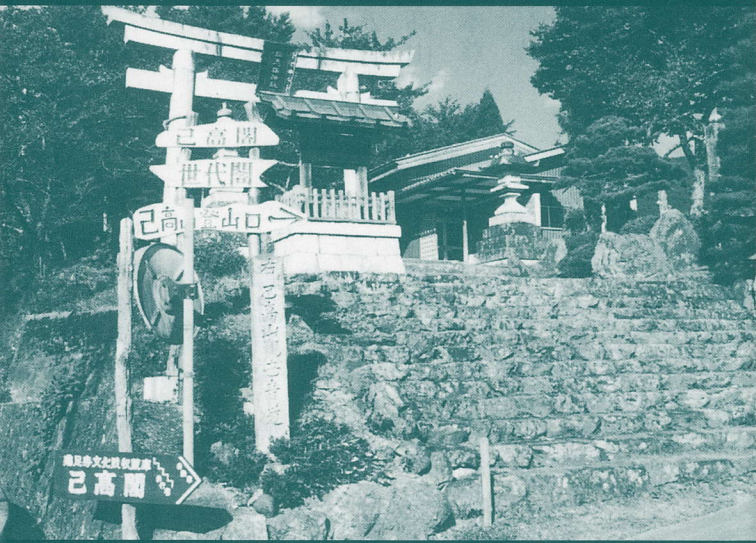


湖北仏教文化のメッカ

己高閣 (KOKOU KAKU) 世代閣 (YOSHIRO KAKU)



己高山 鶏足寺
世代山 戸岩寺

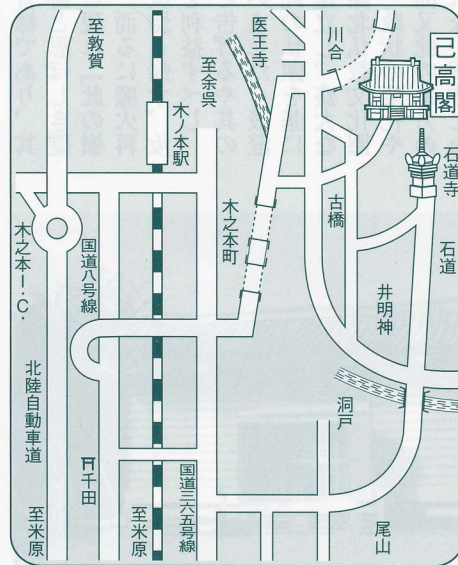
〒529-0411 滋賀県長浜市木之本町古橋
TEL(0749) 82-2784
連絡所 古橋鶏足寺案内所

《年中祭祀日》

仏事	
一、おこない	三月
一、丑まつり	四月
一、盂蘭盆会	八月
一、八朔	九月
一、水害記念日	九月
一、燈明(献燈祭)	九月
神事	
一、祈年祭	二月
一、春季大祭	四月
一、新嘗祭	十一月
一、大抜	十二月
一、月次祭	毎月

年末年始は神仏全日

●交通御案内



- 石道寺マデ 1km
- 医王寺マデ 4km
- 渡岸寺マデ 5km
- JR木ノ本マデ 4km

- JR 木之本 | バス13分 | 古橋下車
- 北自道 木之本I.C. | R:8 | 千田 | R:365 | 古橋
- タクシー JR木ノ本 | 10分 | 己高閣

《己高閣収納寺宝》

- 一、重文 十一面観世音 立像
- 一、梣一木彫 一七二cm 彩色
- 一、県指定 七仏薬師如来 立像
- 一、梣一木及寄木作り 約1m
- 一、県指定 己高山縁起書 二巻
- 一、毘沙門天 立像(本尊の脇待)
- 一、寄木作り 一七一cm 彩色
- 一、不動明王 立像(本尊の脇待)
- 一、寄木作り 一七三cm 彩色
- 一、日光菩薩、月光菩薩
- 一、梣一木作り 各七〇cm 金箔
- 一、兜跋毘沙門天 立像
- 一、櫻一木作り 一九五cm 素木
- 一、破損仏像 多数
- 一、その他 観音、菩薩等

《世代閣収納寺宝》

- 一、重文 薬師如来 立像
- 一、楠一木彫 一八〇cm 漆箔一部乾漆
- 一、重文 十二神将の内三軀
- 一、木心乾漆 一〇〇cm内外
- 一、県指定 魚籃観世音 立像
- 一、梣一木彫 一六〇cm 漆箔(古色)
- 一、県指定 十社権現 神像十軀
- 一、梣一木彫 各約三〇cm 素木
- 一、地藏菩薩 立像
- 一、一木彫 漆箔(古色) 九二cm
- 一、十二神将の内十軀(市指定)
- 一、寄木作り 一〇〇cm 彩色
- 一、日光菩薩、月光菩薩
- 一、寄木作り 一四五cm 彩色
- 一、仏教絵画、古文書類逐次展示
- 一、小仏像、破損仏像 各種 他
- 一、埋蔵文化財 其の他

- 奈良時代
- 奈良時代
- 平安初期
- 平安初期
- 平安後期
- 平安後期
- 鎌倉時代

己高閣

己高閣は昭和三十八年滋賀県下に於ては、初めて国庫の補助を受け建設された文化財収蔵庫で、延喜式々内社與志漏神社（祭神須佐之男尊、波多八代宿禰命）の境内地に建立され、己高山諸寺に祀られていた諸仏のうち、本尊十一面観音、七仏薬師他、重要な仏像を安置収納されています。

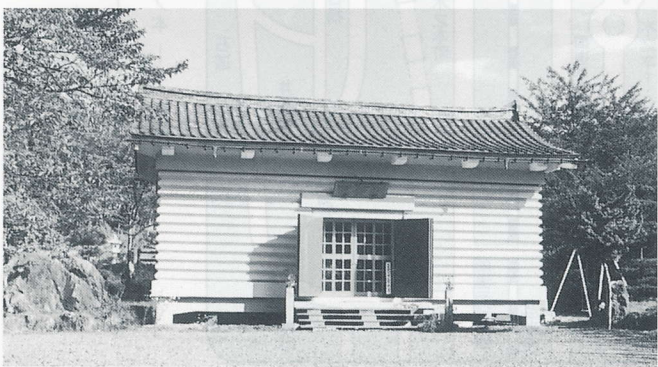
己高山 鶏足寺

己高山には五ヶ寺と其の別院六ヶ寺があり、鶏足寺は代表的寺院名です。鶏足寺は奈良朝時代の昔、僧行基（公快）や泰澄が近江の国の鬼門に当る己高山に十一面観音を祀り謂ゆる庶民のための仏教を広めるべく東光山常楽寺を草創されましたが、時期未だ熟さず寺房は唯狐狸の住家となり、やがて朽ち果てて行く状況となりましたが、僧最澄（玄奘）が、行基菩薩の聖跡を慕い己高山高尾の草庵に投錫され、裏山に瑞光の奇しきを觀じ不思議なる鳥の聲に魅せられ嶮岨をよじ登り、薄雪に残る鳥の足跡に導かれ進むうちに発見されたのが、靈貌は灰燼に埋没すれど仏頭未

だ鮮やかな十一面観音様であり、其の辺りには、仏閣の跡と思ほしき礎石あり、一老翁忽然と現れ『此の嶺は神明守護の高山也、而るに魔火再三に涉り仏閣野火に灰燼と歸す、汝速やかに再興し衆生を利益すべし、余は白山の翁なり』と告げるや其の姿は消え去ってしまいました。最澄は大いに悦び直ちに此の仏頭を基に尊像を修補し仏殿を建立し、盛大なる寺院を再建せられ湖北仏教文化圏を形成されましたが、政状の変化や時代の推移により、尚又此の地方の経済力が之を支え切れない状態となり次第に都の方へ吸収される結果となり、現在真言宗豊山派奈良長谷寺に属し、本尊十一面観音様其の他の仏像及寺宝を己高閣に納め、管理と経営を地区村人によって守られています。

世代閣

当地の鎮守與志漏神社と世代山戸岩寺は往古より特別な相互關係にあり尊崇の中心と成つて居りました。そこで村人相計つて当地区の石器時代以降の文化財や戸岩寺の寺宝等保存の為、区民の浄財のみによつて収蔵庫を建設し、山号に因み「世代閣」と命名し、平成元年秋開館され本尊薬師如来をはじめ多くの仏像仏画其の他出土品や古文書類を収納して居ります。

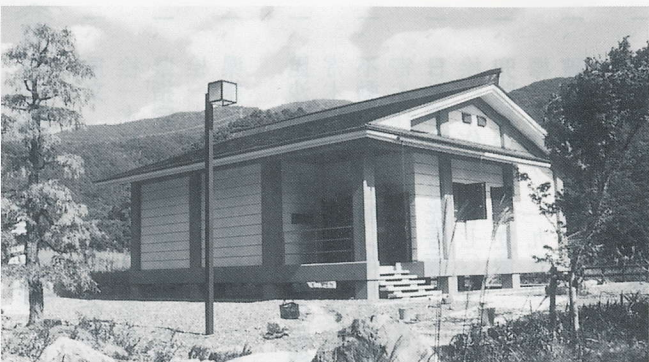


● 己高閣

世代山 戸岩寺

奈良の都を中心に仏教が王朝貴族の間に盛んに行なわれた頃、僧行基は庶民のための仏教を伝え行脚されるうち、当地世代明神の社頭に暫しの休息に微睡み給ううち一老翁現れ『此の地は薬師如来応化の地なれば、汝、速やかに尊像を彫刻し、有情に血縁し給え、尚是より西方に靈地あり、四神之を守る師に非らずんば誰か是を開かんや』と告げられたと思つと夢醒め、行基大いに悦び、川向い（西の方）の栗谷山五ッ岩の辺りに靈光有るを觀じそこに一字を建立し薬師如来の像を自ら彫刻し岩に因みて「世代山戸岩寺」と号し、又神託に則して己高山及神使熊山を開

き盛大な仏教圏を造営されましたが時期未だ熟さず廢頽し、雨露に朽ちなんとして居る頃、僧最澄の投錫により再興され湖北随一の仏教文化圏を形成することになりました。当戸岩寺も世代明神の社頭に頭塔を遷し薬師如来と共に住人も川東に移り住むこととなりました。以来、弘法大師が大日如来や魚籃觀世音を、又恵心僧都も阿弥佗如来を祀り、畿内の安全と住民の繁栄を祈念し続けて来ましたが、その永い年月には政情の変化や兵乱の魔火に幾度か遭遇し寺宝も数知れず失い乍らも貴重な尊像や宝器は常に村人の献身の努力によつて守り続けられて来ました。伝来の薬師如来立像はじめ宝器、寺宝は世代閣に収納安置されることになりました。



● 世代閣